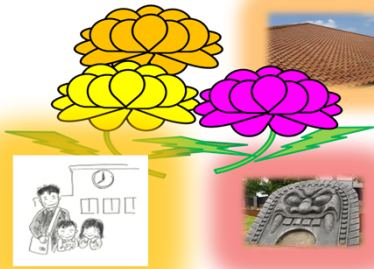


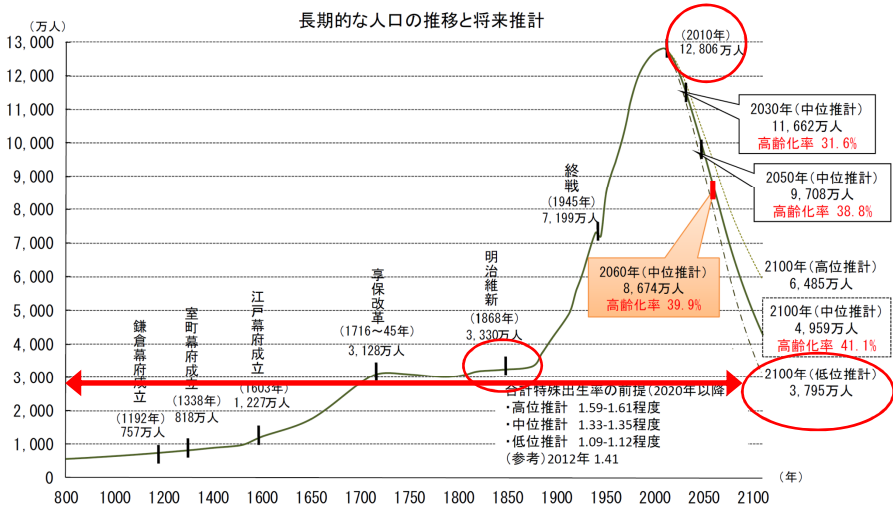
高浜市の 公共施設のあり方を考える 市民説明会



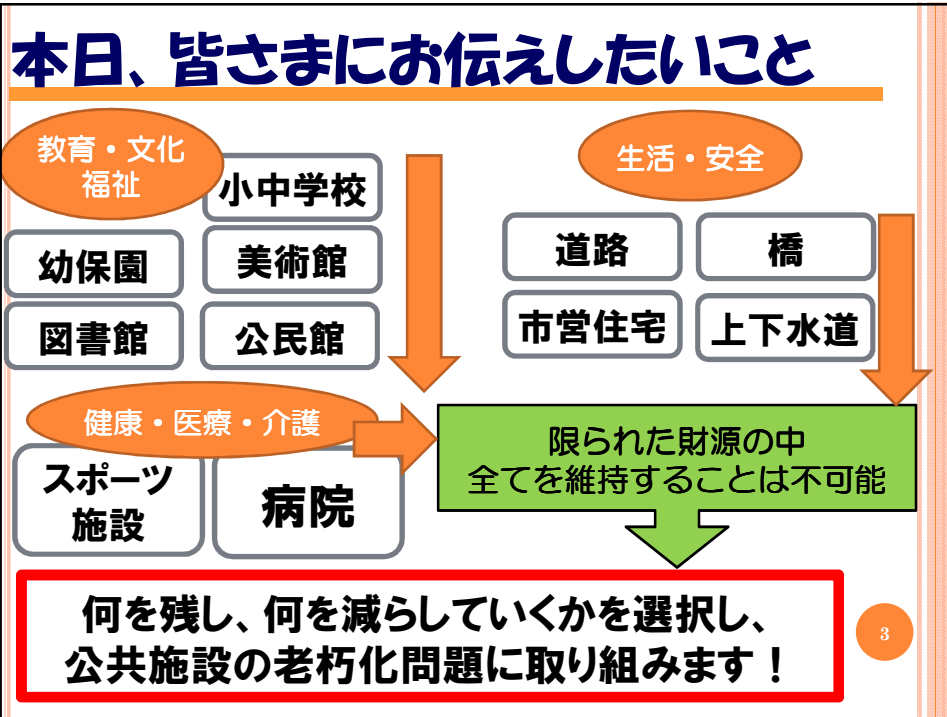
平成27年12月
高浜市役所

平成27年12月2日(水)
港小学校区

わが国の総人口の長期的推移 (100年前と100年後の日本の人口比較)



(備考)国土交通省「国土の長期展望」(2011年)をもとに作成。
2010年以前の人口:総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期的系列分析」(1974年)
それ以降の人口:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」



本日、お話しする内容

- 第1部 公共施設の老朽化問題**
(ハコモノ施設・インフラ施設)
- 第2部 港小学校区の公共施設のあり方**
主要な公共施設のあり方
- 第3部 新しい病院のあり方**

4

第 1 部

公共施設の老朽化問題 (ハコモノ施設・インフラ施設)



公共施設の老朽化問題とは。

- 公共施設の多くは、都市化の進展や経済成長（高度経済成長期）とともに集中的に整備。

➡ 近い将来、一斉に更新する時期が到来

- 少子高齢化と人口減少の進行による財政状況の悪化。

➡ すべての公共施設を維持し続けることは困難

これが「**公共施設の老朽化問題**」

公共施設の老朽化問題に対する 国の対応

公共施設等を「新しく造る」から
「賢く使うこと」を重点に



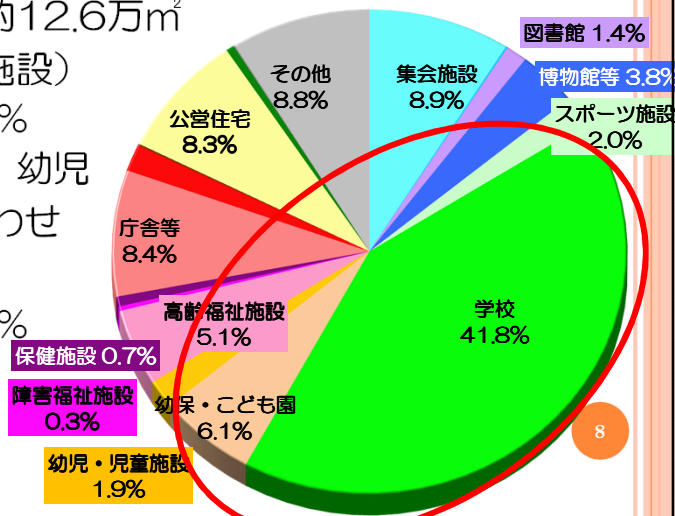
平成26年4月
総務省⇒各自治体へ
「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進」を要請

公共施設の今後のあり方は、高浜市を
含めたすべての市町村の重点課題

7

高浜市の公共施設の割合

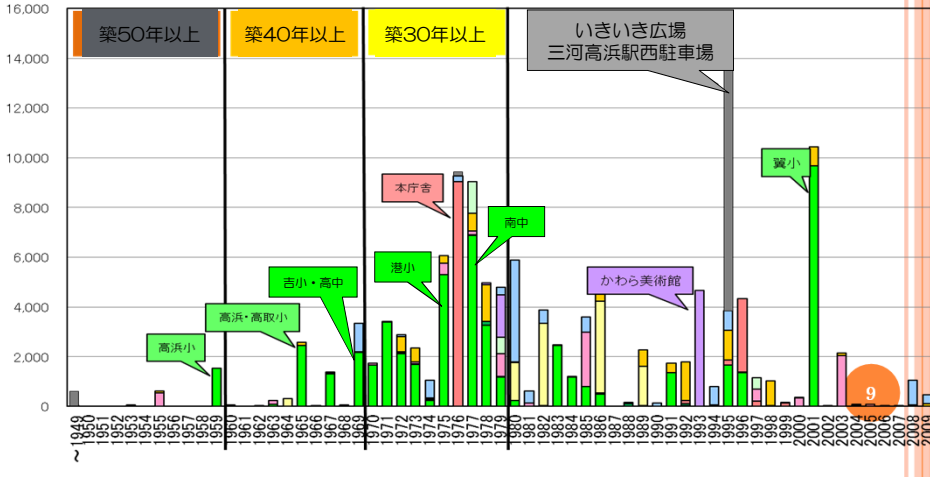
- 公共施設数：114施設
- 総延床面積：約12.6万㎡
- 小中学校（7施設）
面積割合は約42%
- 学校、幼保園、幼児
・児童施設を合わせ
（30施設）
面積割合は約50%



8

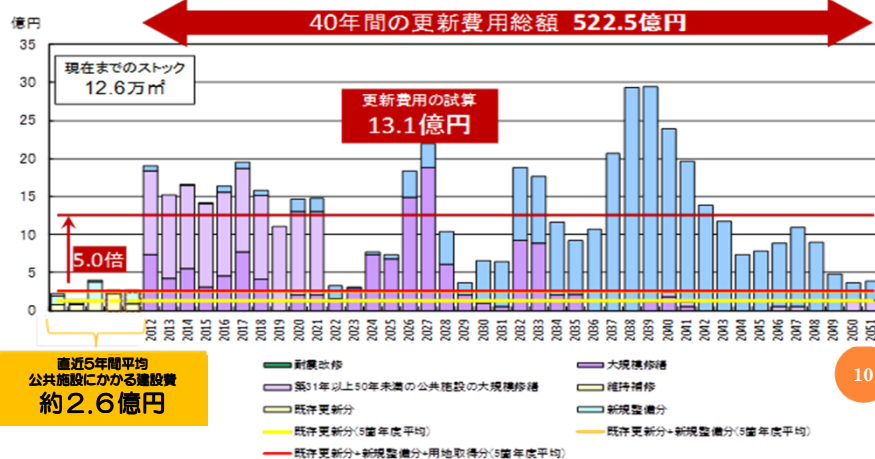
高浜市の公共施設の整備時期

- 社会環境の変化や市民ニーズの多様化に応じて、1970年代（昭和45年代）を中心に公共施設を整備。



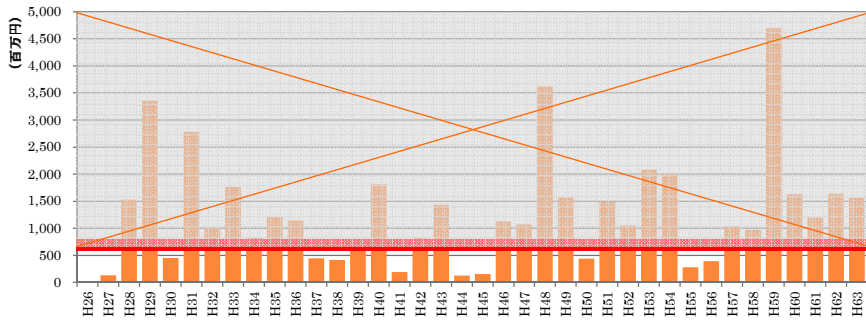
高浜市の公共施設の更新費用

- 114施設すべて更新すると＝40年間で522.5億円
(年平均13.1億円)
- 近年の公共施設に係る建設費 ＝ 約2.6億円
- 必要とされる費用の5倍以上が今後必要



今までどおりの取組みをした場合

ケース① すべての施設をそのまま残し、今までどおりの応急的な修繕を行うと…

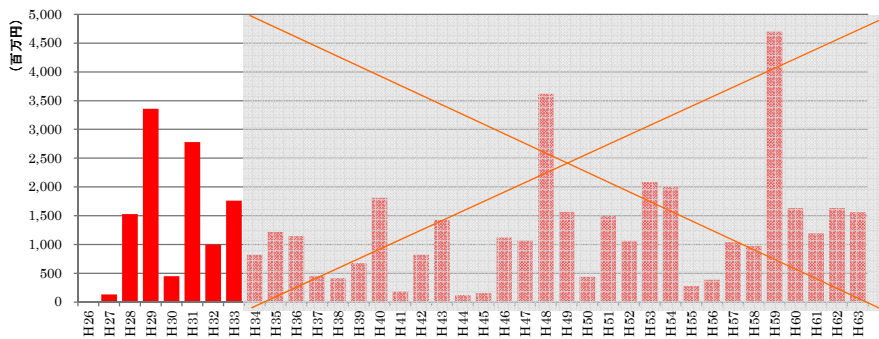


いずれは老朽化が進行し、建物が崩壊。
安心・安全なまちから遠のいていくことに



古い順に更新を続けた場合

ケース② すべての施設をそのまま残し、古い施設から順番に建替え続けると…



借金をして対応しても、全ての施設を更新する
前に財政が破たん



高浜市のインフラ施設の状況

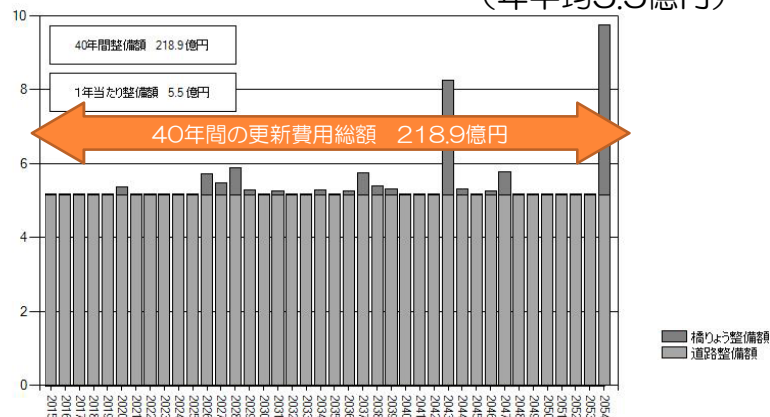
施設分類	内 訳
道 路	一般道路 227,629m (1,518,895㎡)
橋 梁	橋 梁 40橋 (内、刈谷1、碧南1)
上水道	配水管 222,331m
下水道 (汚水・雨水)	コンクリート管 22,943m
	陶管 113,128m
	塩ビ管 8,431m
	その他下水管 3,711m
	計 148,213m
河 川	準用河川 3,170m
公 園	街区公園 18箇所
	都市緑地 1箇所
	近隣公園 1箇所
	都市公園以外の公園 3箇所
農 道	農 道 9,475m
樋 門	樋 門 4箇所

13

高浜市のインフラ施設の更新費用

- インフラ施設（道路、橋りょう）を同種・同規模で更新した場合 = 40年間で218.9億円

(年平均5.5億円)



→ 市民のライフラインを支える必要不可欠な支出
※現在、方針を策定中、費用は概算表示

高浜市も老朽化問題に直面

【まとめ】

- ・生産年齢人口の横ばい ⇒ 税収の増額が見込めない
- ・高齢者人口の増加 ⇒ 医療費・介護費など
扶助費の増大
- ・年少人口の横ばい ⇒ 学校・幼稚園・保育園を
今後も維持していく

施設更新の大きな波に備えた取り組みが必要



- ① 公共施設の更新費用を削減
- ② 行政サービスの見直し

15

公共施設のあり方検討経過

年度	内容
H21	公共施設整備基金設置
H23	・高浜市公共施設マネジメント白書の作成 ・職員プロジェクトを組織
H24	高浜市公共施設あり方検討委員会を設置
H26	4月～：公共施設あり方推進本部会議の設置（行政） 6月：高浜市公共施設あり方計画（案）の作成 7月～：公共施設あり方検討特別委員会の設置（議会） 8月～10月：あり方計画説明会（全5回）の開催
H27	10月：公共施設マネジメント基本条例の制定 ：公共施設マネジメント推進委員会の設置

(参考)
白書作成
自治体
H23
西尾市
H24
半田市
豊川市

16

※ 高浜市は、全国のなかでも先がけて取り組んでいます

高浜市が目指す公共施設の姿

「高浜市公共施設マネジメント白書」から見えてきた課題を踏まえ……

**「現行ある施設以外に
新しい公共施設はつukらない」**

という考えのもと、

全体面積の中で約半分の割合を占めている



「学校」を地域コミュニティの拠点として位置づけ、他の施設との複合化を視野に入れた施設の改修・建替えを実施

17

具体的な改善目標(ハコモ/施設)

目指すべき姿の実現に向けた改善案 (H26)

改善項目①
耐用年数の
長寿命化

施設の計画的な修繕や大規模改修、適正な維持管理による施設の延命化

大規模改修35年
建替え70年

改善項目②
総量の圧縮

運営形態の見直しや、施設機能の複合化を図る。

延床面積
37.7%の総量圧縮

長期の
財政見通し

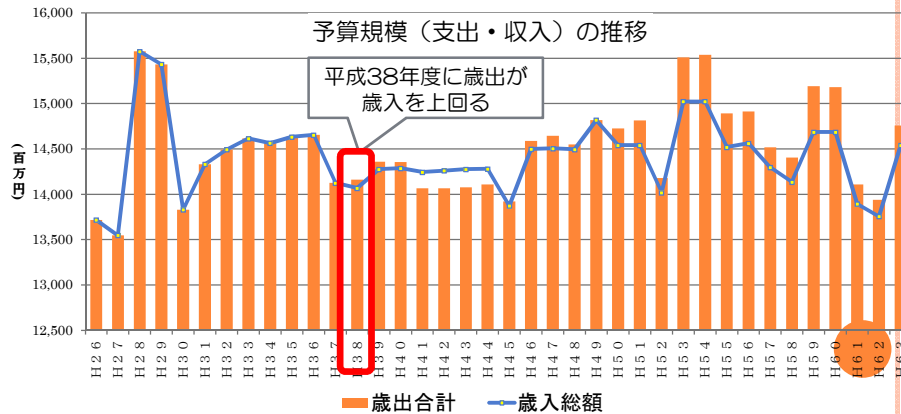
平成63年までの財政運営状況

長期財政見通し

18

40年間の長期の財政見通し①

- 改善項目①(長寿命化)、改善項目②(総量圧縮)を実施した場合の予算規模は、歳出が歳入を上回り、赤字となるため予算編成ができない。



40年間の長期の財政見通し②

- 平成26年度での財政見通しでは、平成38年度までに貯金がなくなり、公共施設の整備が実施できなくなる。
- インフラ施設(道路・橋など)の維持管理費用を確保

平成27年度

財政的な担保を確保するため
次なる対策が必要

- さらなる施設の総量圧縮、推進プランの前倒し
- インフラ施設の長寿命化方針の策定
- 抜本的な行政サービスの見直し

第 2 部

① 港小学校区の 公共施設のあり方



港小学校区の公共施設の概要

施設名	老朽化	耐震化	利用者数
港小学校	×	○	-
高浜南部幼稚園	×	○	-
高浜南部保育園 (南部デイサービスセンター)	○	○	-
高浜南部公民館	×	○	28人/日
南部ふれあいプラザ	×	○	25人/日
東海児童センター(児童クラブ) ・東海会館	○	○	3人/日
高浜南部老人憩の家	×	×	7人/日

港小学校区の公共施設のあり方

高浜市が目指す公共施設の姿

「学校」を地域コミュニティの拠点として位置づけ、他の施設との複合化を視野に入れた施設の改修・建替えを実施



① 港小学校の建替えに併せ、他施設の機能を複合化

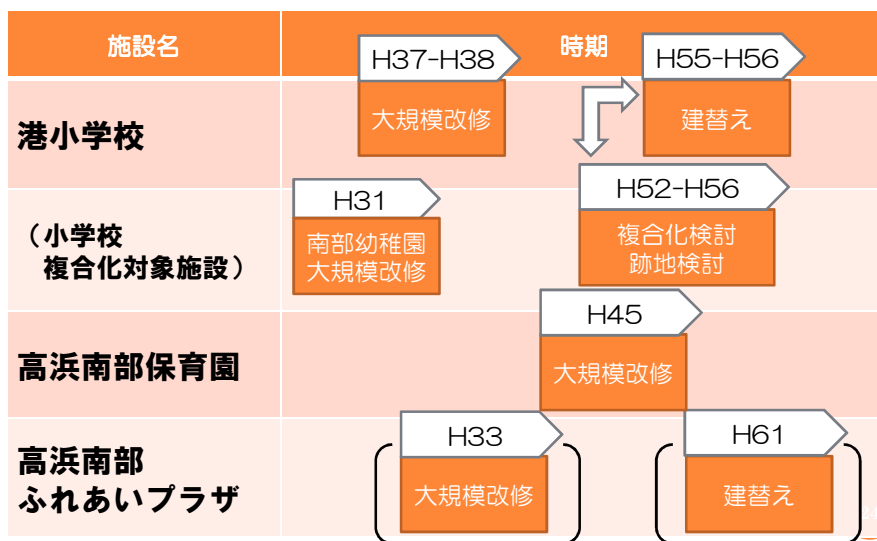
⇒ (複合化対象施設)

高浜南部幼稚園、東海会館・児童センター(児童クラブ)、高浜南部公民館、南部デイサービスセンター、老人憩の家(高浜南部)

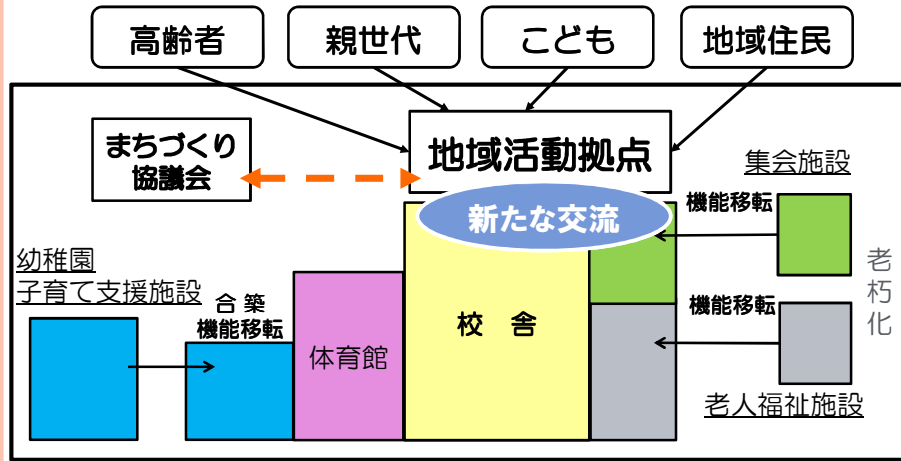
② 高浜南部保育園、高浜南部ふれあいプラザを改修・建替え

23

港小学校区の公共施設複合化スケジュール



港小学校複合化イメージ図



地域コミュニティの拠点となる複合施設として、
学校を整備し、将来にわたり持続させる。

25

港小学校区の複合化による財政効果

施設名	単独の建設費 (A)	複合化施設の建設費 (B)	財政効果 (A-B)	単位 (千円)
港小学校	1,616,340	1,616,340	0	
高浜南部幼稚園	206,250	-	△206,250	
高浜南部公民館	191,200	-	△191,200	
東海児童センター 東海会館	199,570	-	△199,570	
南部デイサービスセンター	178,560	-	△178,560	
高浜南部老人憩の家	24,480	-	△24,480	
合計	2,416,400	1,616,340	△800,060	26

第 2 部

②高浜市の主要な 公共施設のあり方



市立図書館の現状と今後の方向性

- 市立図書館の現状
 - ・ 建築年度 昭和54年度 ・ 延床面積 1,707㎡
 - ・ 利用者数 67,464人(H26)
 - ・ 事業費 67,930千円(H26)
 - ・ 堤外地に立地し、液状化の危険性がある。
- 公共施設あり方計画 推進プランの見直し
【計画期間：平成29年度～平成31年度】
図書館機能 ⇒高浜小学校等に図書機能を移転させ、
複合施設とします。

現在の方向性



従来の図書館ではなく、特色のある
図書館のあり方を検討します。

28

体育センターの現状と今後の方向性

- 体育センターの現状

- ・ 建築年度 昭和52年度
- ・ 延床面積 1,259㎡
- ・ 利用者数 28,049人(H26)
- ・ 耐震対策未実施
- ・ 堤外地に立地し、液状化の危険性がある

- 公共施設あり方計画 推進プランの見直し

【計画期間：平成29年度～平成31年度】

スポーツ機能 ⇒機能の集約化・機能移転と複合化による
スペースの効率的利活用。

現在の方向性



高浜小学校等に機能を移転させ、
複合施設とします。

29

青少年ホーム(南テニスコート)の 現状と今後の方向性

- 青少年ホーム(南テニスコート)の現状

施設名	建築年度	延床面積	利用率
青少年ホーム	昭和49年	694㎡	8%
南テニスコート	昭和57年	- ㎡	39%

- 公共施設あり方計画 推進プランの見直し

【計画期間：平成28年度～平成30年度】

集会機能⇒スペースの有効活用による施設の複合化・集約化
保有形態の見直しによる効率化

現在の方向性



施設を民間に移譲し、機能の集約化を行による
スポーツ拠点の形成を目指します。

30

市営住宅の現状と今後の方向性

● 市営住宅の現状

施設名	建築年度	棟数	戸数	延床面積
葭池住宅	昭和39年	2	10	320㎡
芳川住宅	昭和55年	1	24	1,581㎡
湯山住宅	昭和57年	3	48	3,305㎡
東海住宅	昭和61年	3	48	3,693㎡
稗田住宅	平成元年	1	20	1,569㎡

● 公共施設あり方計画 推進プランの見直し

【計画期間：平成28年度～平成30年度】

市営住宅 ⇒ 計画的修繕を行いつつ、民間ストックの活用（新民間賃貸住宅・家賃助成の検討）に向けた検討を行います。

31

かわら美術館の現状と今後の方向性

● かわら美術館の現状

- ・ 建築年度 平成5年度 ・ 延床面積 4,669㎡
- ・ 観覧者数（常設展・企画展・特別展） 52,121人(H26)
- ・ 事業費 160,000千円（H26）

● 公共施設あり方計画での位置づけ

計画前倒し！

【計画期間：平成38年度～平成41年度】

美術館機能 ⇒ 大規模改修による長寿命化
保有形態の見直しによる効率化

現在の方向性

運営のあり方を見直し、
美術館のあり方を今後5年間で検討します。

中央公民館の現状と課題 (どうして中央公民館を廃止するのか)

● 中央公民館の現状

- ・ 建築年度 昭和55年度
- ・ 延床面積 4,091㎡
- ・ 利用者数73,354人(H25)
- ・ 利用率 15%(H25)
- ・ 事業費 31,448千円 (地区公民館 17%)

【課題】

長期財政見通しでは、大規模改修に伴う財政負担は困難と判断

● 公共施設あり方計画での位置づけ

- ・ 「集会施設」→スペースの有効活用による施設の複合化・集約化
- ・ 跡地活用として、土地の売却や貸出等による財源確保

当時の方向性

【計画期間：平成30年度～平成33年度】

- ・ 公民館機能 ⇒ 他の集会施設へ機能の集約化
- ・ ホール機能 ⇒ 高浜小学校の更新時に機能の複合化

33

中央公民館の今後の方向性 (どうして廃止時期を前倒しするのか)

● 長期財政見通しによる計画の前倒し

- ・ 平成26年度での財政見通しでは、中央公民館をH30～H33の間で廃止した場合でも、H38までに貯金が枯渇

● 新たな財政負担への対応

- ・ インフラ施設に係る投資費用の財源確保
- ・ 機能移転までに発生する施設・設備の修繕費の抑制

現在の方向性

計画前倒し！

- ・ 公民館機能⇒他の集会施設へ機能の集約化
- ・ ホール機能⇒高浜小学校の更新時に機能の複合化
- ・ 商工会 ⇒移転検討

34

中央公民館の機能移転

中央公民館	機能移転先施設					
	H27	H28	H29	H30	H31	H32
中央公民館 ホール機能	各学校体育館 美術館ホール、いきいき広場ホール		高浜小学校 体育館ホール			
中央公民館 集会機能	移転先施設一覧 各地区公民館 各ふれあいプラザ 高浜エコハウス 新庁舎(市民会議室・議場) かわら美術館(会議室・スタジオ)					

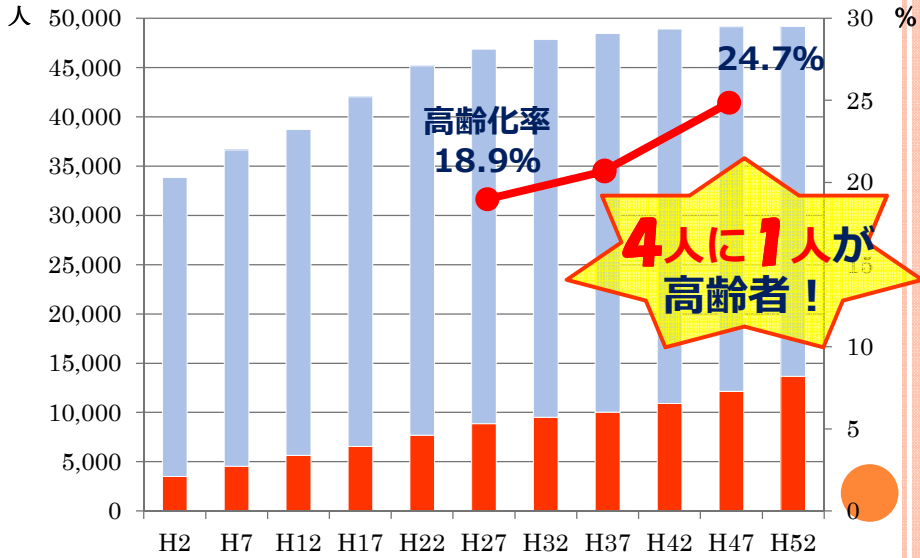
第 3 部

新しい 病院のあり方

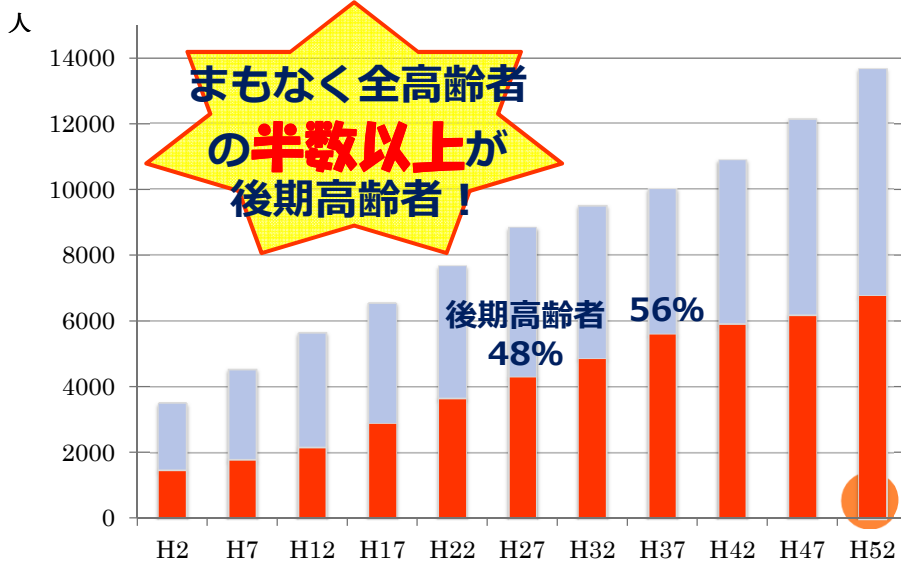
36

高浜市保健福祉グループ

人口の推移・推計(総人口/高齢化率)

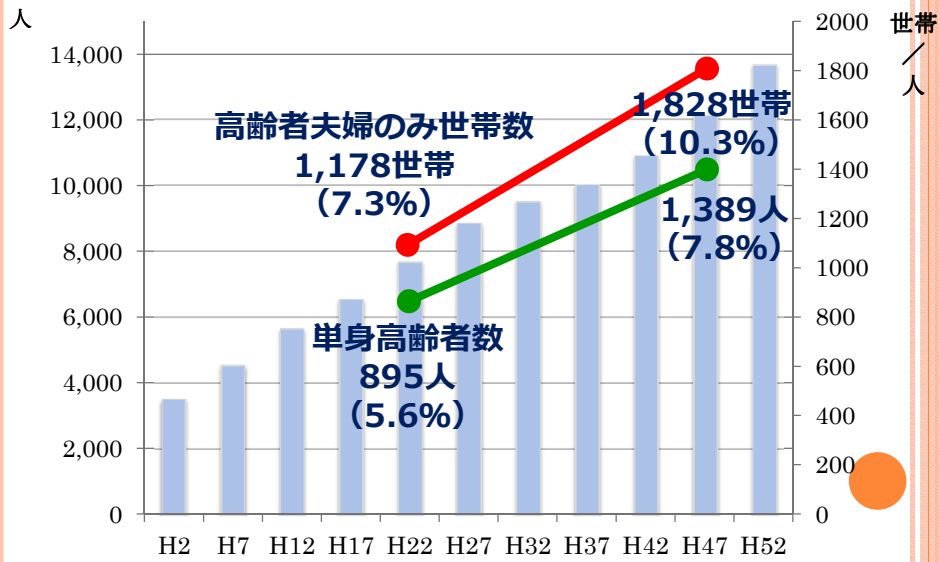


人口の推移・推計(高齢者数/後期高齢者数)



人口の推移・推計

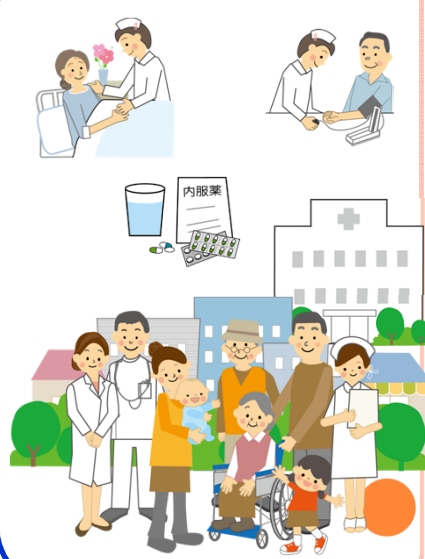
(高齢者数／単身高齢者数・高齢者夫婦のみ世帯数)

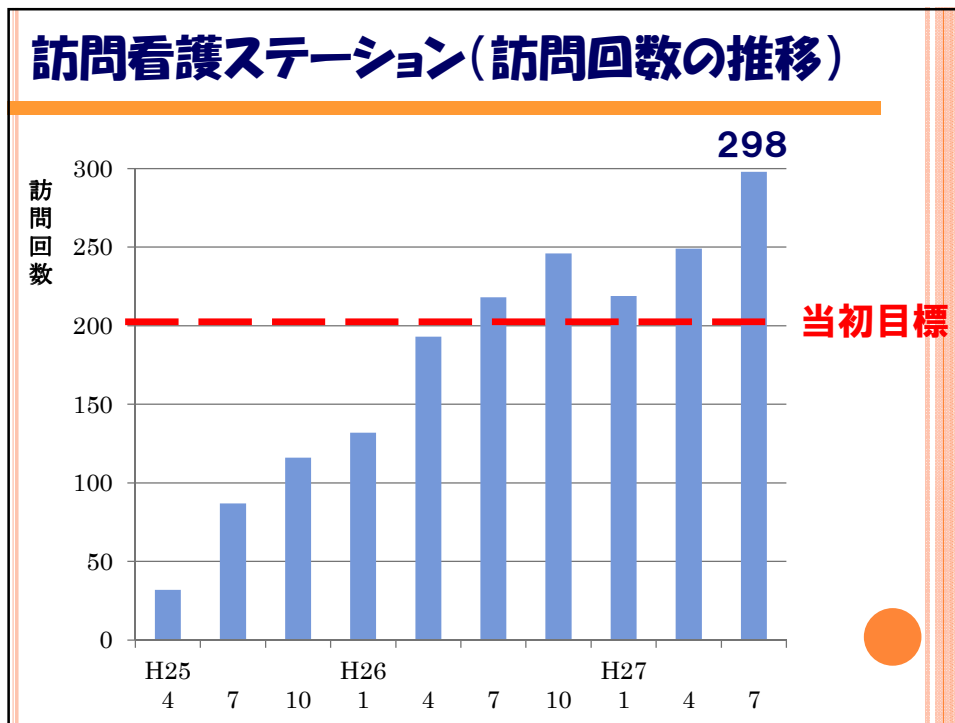
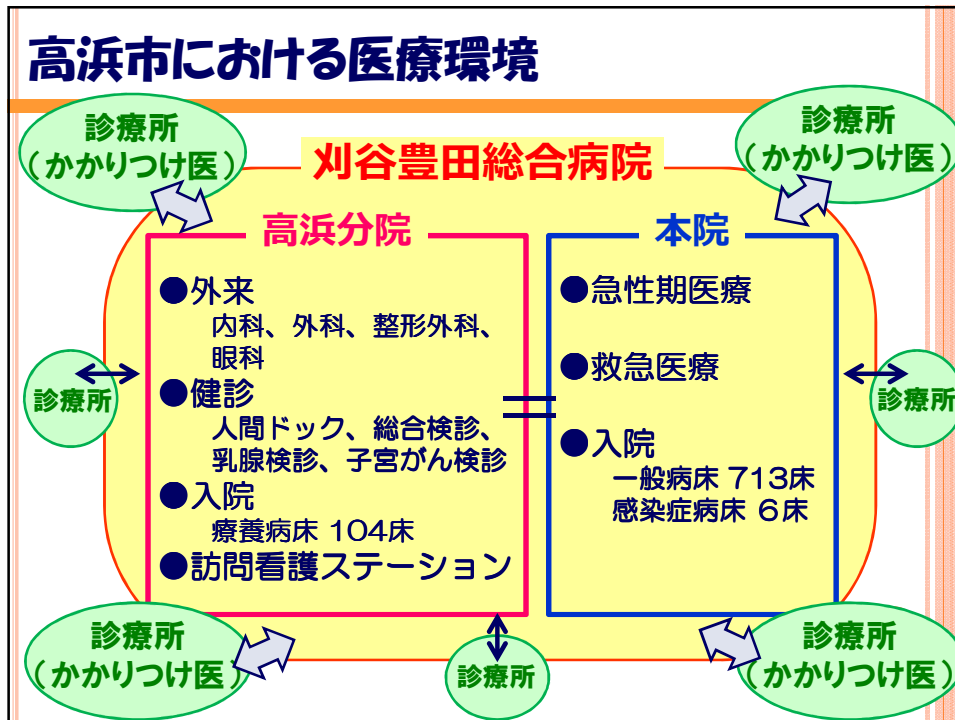


健康寿命の延伸



地域医療の充実







西三河南部西医療圏

(高浜市、碧南市、刈谷市、安城市、知立市、西尾市)

		介護(2040年介護ベッド準備レベル)						
		少ない						余裕
		1	2	3	4	5	6	7
医療(急性期医療密度レベル)	余裕	7						
	6		札幌 福岡	京都 大阪				
	5		東京	名古屋	神戸			
	4							
	3							
	2							
	1							
少ない								

高浜市を含めた西三河南部西医療圏

「日本創成会議」資料

人口1万人当たりの病床数

愛知県

平均91.1床

衣浦東部保健所

(高浜市、碧南市、刈谷市、
安城市、知立市、みよし市)

平均72.9床



	病院数	病床数(人口1万人当たり)
刈谷市	6	104.4床
碧南市	5	94.3床
安城市	5	72.3床
みよし市	2	47.8床
知立市	2	40.2床
高浜市	1	23.0床

刈谷豊田総合病院 高浜分院

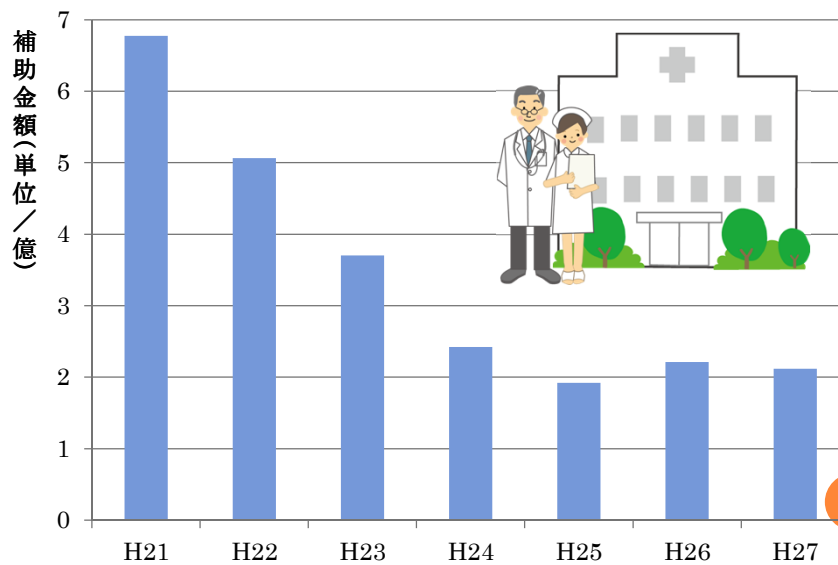
- もともと「高浜市立病院」として、昭和60年2月に開院
- 医師不足の影響から、病院の存続が危ぶまれるようになり、平成21年4月に医療法人豊田会へ民間移譲
- 民営化後は、縮小された診療体制が徐々に復活
104あるベッドは、4年前からほぼ満床



病院の移譲に関する協定書

- 豊田会と高浜市は協力して10年以上病院の運営に努める
- 病院の土地は無償貸与、建物は無償譲渡
- 病院を継続するため、高浜市からの財政支援
 - ①運営費補助金
 - ・病院を運営するために必要な経費
 - ・地域医療・救急医療を確保するための経費（刈谷市の30%）
 - ②施設整備費補助金
 - ・高度医療機器やシステム整備のための経費（3千万円を限度）
 - ・病院の建替えを含む施設改修経費（20億円を限度）
 - ・施設の緊急修繕が発生した場合の経費（その都度協議）

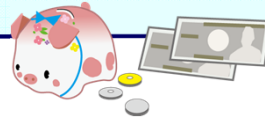
豊田会への財政支援の推移



- **施設の老朽化**(特に、電気、空調、給排水といった付帯設備)が深刻で、毎年**多額の修繕費**が発生



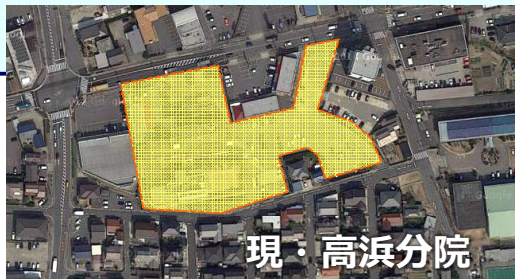
- 現在の建物では、**病床を増やすスペースもなく、毎年2億円近い赤字**が発生



現在の敷地内での建替えを検討

- 現在の敷地での建て替えを検討するも、**不整形地**であるため制約も多く、**入院患者を抱えたままの建替えは困難**

- 移転候補地の中から、**市民の皆さんの利便性**などを考慮し、**中央公民館の跡地**を選択



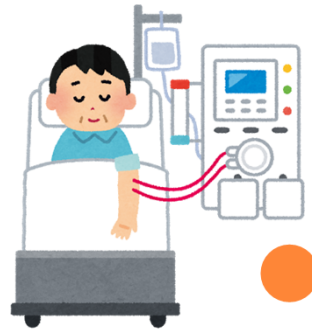
現・高浜分院

新しい病院のあり方

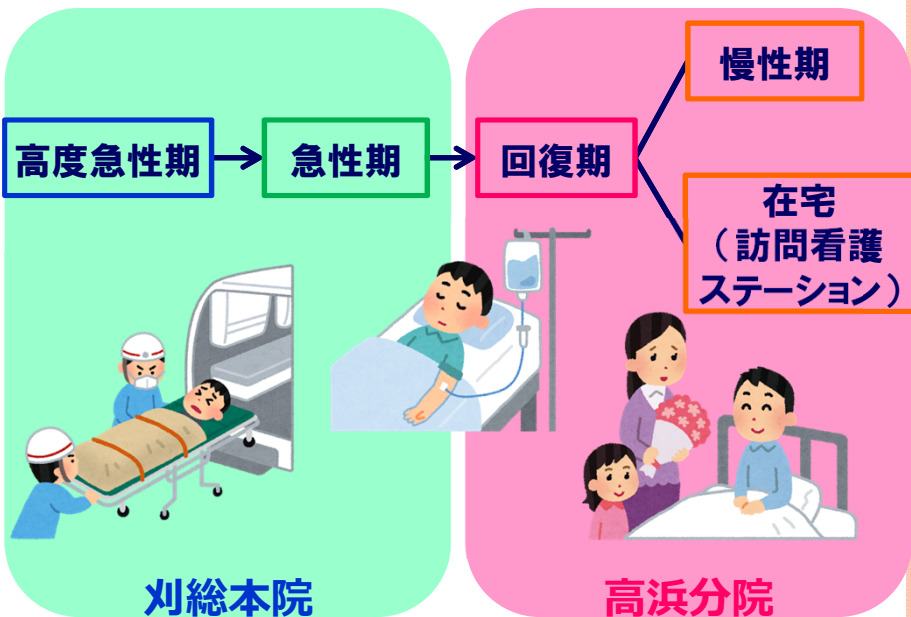
～高浜市唯一の病院として、
最近の医療情勢に応じてまいります～
(最短で平成30年4月オープン予定)

1 医療機能の充実

- ①専門外来の充実(腎臓内科など)
- ②人間ドック、総合検診の充実
- ③透析センターの新設
- ④回復期、慢性期病床の増床

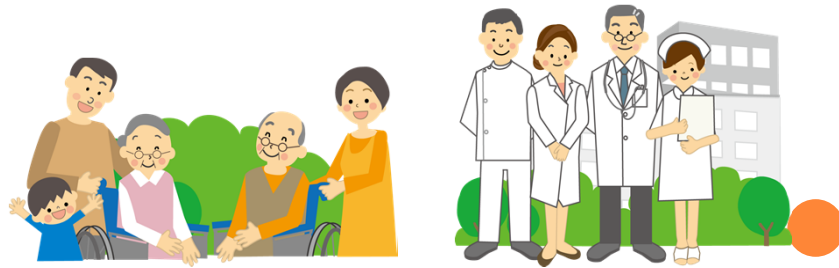


地域医療構想における病床の構成



2 地域包括ケアシステムへの貢献

- ①訪問看護ステーションの充実(機能強化型)
- ②居宅介護支援事業所の開設
- ③災害時における医療救護所の後方支援
- ④定期巡回・随時対応型訪問介護看護の実施



機能強化型訪問看護ステーション

主なサービス内容



24時間対応



重症度の高い患者



かかりつけ医との連絡調整



自宅での看取り

建物の概要

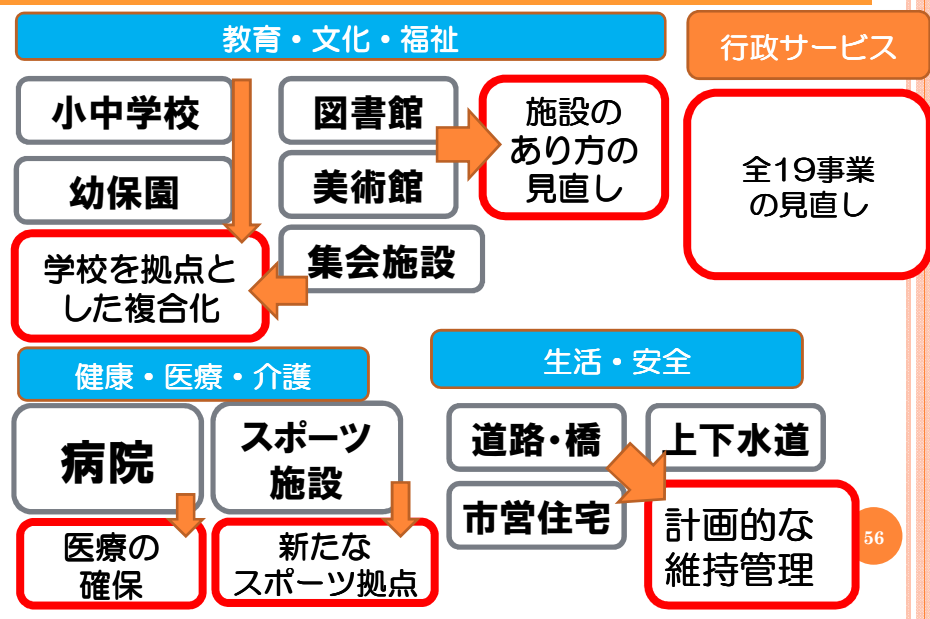
1 概要

	現 状	計 画
構造	鉄筋コンクリート造り 地下1階、地上5階	鉄筋コンクリート造り 地上6階
延床面積	8,640㎡	約15,000㎡

2 フロア構成



限られた財源の中、何を選択するのか



おわりに

- 公共施設のあり方を考える取組みは、新しいものをつくる経験はあっても、「減らす」という今まで経験したことがない取組みです。
- 限られた財源の中、何を優先して、集中的に財源を投入するかを選択します。



将来の高浜市が
持続可能で自立した自治体であるように
最重点課題として取り組んでまいります

57